

福生駅周辺における環境について



スポーツ・文化を通じて人づくりと街づくりの会
幡垣 正生 議員

質問 福生駅西口喫煙所の状況等について市が講じた対策と今後に向けた所見を伺う。

市長 西口喫煙所のたばこの煙に対する対策として、灰皿スタンドによるパーティションによる分煙化がより図られている東口の喫煙所の利用を促す掲示を実施。引き続き福生市美しいまちづくりマナーアップ指導員による指導や、マナーアップキャン

ペーンの継続実施、市広報やホームページ等により喫煙マナー向上の周知徹底等に加えて、東口喫煙所の利用と周知啓発に努めていく。

福生駅西口地区市街地再開発事業について

質問 本事業について市としての今後の考え方を伺う。

市長 本事業は福生市の顔にふさわしい都市環境整備に資する事業で

市としても支援を続けている。一方で、資材高騰や労務単価の上昇のため事業全体にかかる費用が当初と比べ高額となっていると思われることから、財政運営上の懸念があり、事業の成立性が不透明であるため本事業が実現可能なものとなるよう計画を見直してはどうかと伝えた。今後も市として引き続き事業を支援していく考えに変わりはない。



教職員の心身の健康を保つための取組について



立憲民主党
市川 佳樹 議員

質問 令和5年度の文部科学省の調査で教職員の精神疾患による病気休職者数が過去最多となったが、本市の教職員の心身の健康を保つための取り組みについて伺う。

教育長 心の病の予防には、教職員自身が自らのメンタルヘルスの不調に気づくことが大切であるため、本市教育委員会では、教職員を対象としたストレスチェックを年2回実

施し、希望者に東京都教育委員会が実施する様々な相談窓口を紹介している。また、新規採用教員センター制度では同世代の先輩教員等がセンターを務め、日々の声掛けや気軽な相談等を心がけることで新規採用教員の働きやすい職場環境づくりを促進している。さらに各学校の校長、副校長は、支援を必要としているサインを見逃さないよう定期的に面談

等を実施している。本市教育委員会としては、教師としての力を高めることが教員のメンタルヘルスを健全に保つことにつながるという考え方から、指導主事がこまめに学校を訪問し教員の指導力の向上に努めている。今後も福生市立学校の全ての教職員が仕事にやりがいを感じ、心身の健康を保ちながら子どもたちを導くことができるよう学校を支援していく。



動物との共生と環境衛生について



正和会
小澤 芳輝 議員

質問 亡くなった動物の扱いに関する制度による一般的な取り扱いはどのようなものか。また、ペット専用の靈園施設を新たに設置する際はどのような手続が必要なのかを伺う。

市長 市に登録した飼い犬については、保健センターに死亡届の提出が必要となる。一般的に動物の死体の処理には、①自宅の敷地内に埋葬する方法、②ごみ減量対策課ごみ総

合受付センターに申し込み、所定の手数料を払って市が委託している寺院で埋葬する方法、③ペット専用の靈園事業者に火葬、葬祭、納骨などを依頼する3つの方法がある。なお、公道で犬や猫、鳥等の死体を発見した場合は、ごみ減量対策課ごみ総合受付センターに連絡をしてほしい。また、動物靈園等の新設手続について、動物に関しては「墓地、埋葬等

に関する法律」は適用されず、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」にも当たらないため、通常の建築確認申請等の手続を行うこととなる。

質問 動物靈園事業の設置等について、規制が必要と考えるが条例等により規制している自治体はあるか。

生活環境部長 近隣自治体では、八王子市、あきる野市、武蔵村山市などが条例で対応している。



福生市立学校在り方検討委員会及び学校再編について



日本共産党
市毛 雅大 議員

質問 「福生市立学校在り方検討委員会」設置の趣旨、経緯、背景及び「令和における福生市立学校の在り方検討委員会」との役割の違いや福生市立学校再編に向けた23の提言報告の内容を伺う。

教育長 本市の教育課題の解決と学校教育に対する市民の思いや願いの実現を目指し、令和4年度から3年間「令和における福生市立学校の

在り方検討委員会」を設置。多面的、多角的に議論し7つの総括をまとめた。今年度設置した「福生市立学校在り方検討委員会」は、これまでの7つの総括を踏まえつつ、公共施設マネジメントを専門とする有識者を加え、学校再編を念頭に熟議を重ねて、報告書にまとめた。本報告書は市立学校の現状、これからの中学校や学校の在り方など4つの視点、23の

項目に沿って提言されている。今後の本市の学校の在り方を検討する上で極めて有用なものと認識している。

質問 検討委員会では学校再編に際し少人数学級について言及されたか。小・中学校ともに35人で試算だが、それ以外の人数で試算はしたか。

教育部長 少人数学級についての意見はなく、小・中学校ともに35人学級以外の試算は行っていない。



▲福生市立学校在り方検討委員会の会議の様子

公民館事業の現状と今後の展望について



日本共産党
伊藤 広美 議員

質問 福生市では社会教育が盛んでおり、3館の公民館は市民がいつでも自由に集まれるコミュニティ、生きがいづくりの場となっていると感じられるが、公民館事業の現状と今後の展望について伺う。

教育長 市民の誰もが生涯を通じて学びによって活躍することができるよう、また気軽に生涯学習に取り組めるよう、環境の充実を図ること

が重要である。現在、公民館3館は市民の自主的な学習を支援する教育機関として150団体を超える公民館サークルを支援している。各館のまつりや市民文化祭の実施など市民の学習成果発表の場を提供するとともに、公民館職員が企画・立案して年間40コース以上の公民館主催講座を実施し、学習機会の提供に努めている。今後も少子高齢化の中でも地域

コミュニティを支える基盤としての役割を担えるよう、時代に即した在り方を検討し、学習環境の整備と学習機会の充実に努めていく。

質問 今回の「だれでもなんでも展」に高校生が参加した経緯は。

教育部長 令和6年度の主催講座に市内高校生が参加したことをきっかけに交流が生まれ、今年度の模擬店運営につながった。



▲だれでもなんでも展の作品の一部